

令和3年度 第2回燕市男女共同参画推進審議会 会議録

日 時：令和3年10月12日（火）午前9時30分～10時30分

場 所：燕市吉田公民館 3階 大ホール

出席委員：渡邊洋子委員、秦久美子委員、田中勝美委員、柳泰代委員、信田謙一郎委員、
坂井真由美委員、藤井裕子委員、井上智玄委員、本間伶子委員（9人）

欠席委員：鳥部周司委員、宮路聡委員（2人）

事務局：企画財政部長、地域振興課長、地域振興課事務局 4人

傍聴者：なし

1. 開会

2. あいさつ

（企画財政部長あいさつ）

3. 議題

（会 長）それでは議事に移ります。次第の「3. 議題」の「(1) 男女共同参画に関する市民意識調査及び事業所調査の項目について」です。はじめに、「市民意識調査」について、事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

（会 長）ただいま事務局から、「市民意識調査」についての説明がありました。質問、意見がありましたら、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

（委 員）問22のLGBTQについての説明の※（こめじるし）内、「セクシュアリティ」という言葉が、カタカナ用語で分かりづらいと思います。日本語にしてはいかがでしょうか。

（事務局）分かりやすい表現に修正いたします。

（会 長）一般的にはまだなじみのない言葉でしょうから、日本語にしていただけるとよいと思います。

（委 員）ワーク・ライフ・バランスに関する設問について、事業所調査の方には「※ワーク・ライフ・バランスとは…」という説明がありますが、市民意識調査の方は「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という表記に留めているようです。何か意図があってそうされているのでしょうか。例えば、ワーク・ライフ・バランスの

浸透度は、事業所よりも市民の方が浸透しているからといったような理由があるのか、少し気になりました。

(事務局) 市民意識調査と事業所調査で表記が異なっていることに、意図は特にありません。6年前の前回調査時には、それぞれの調査を別々のタイミングで審議をしており、それを基にして今回作成したということで、両方の整合性がとれていない状態でした。

(会長) 調査への回答を通じて、言葉になじんでいただくという啓発的なこともあってもよいかもしれません。外来の言葉によっては、日本語の語彙にあてはまるものがなく、ニュアンスを正確に伝えるためにあえてカタカナ言葉をそのまま使うというケースもあり難しいとは思いますが、この点に関してみなさまのご意見はいかがでしょうか。また、場合によっては、「日本語(カタカナ言葉)」という表記にした方が分かりやすいということも考えられます。

(委員) 事業所調査にある「※ワーク・ライフ・バランスとは…」という説明を市民意識調査の方にも加えてはいかがでしょうか。おそらく一般市民よりも事業所の方がワーク・ライフ・バランスについては詳しいかと思えます。一般市民に対しても、ワーク・ライフ・バランスがどのようなものかイメージができるかたちの方が質問にも答えやすいでしょうから、説明を追加していただければありがたいです。

(事務局) 分かりやすくなるように、市民意識調査にもワーク・ライフ・バランスについての説明を加えたいと思います。

(委員) 「バランスがとれている」や「調和している」といった感覚は、個人の価値観によるものかもしれませんが、他の人と比較したときに気付くこともあろうかと思えます。そのあたりが調査結果にも何か影響があるのかということが気になりました。

(会長) F6「あなたにはお子さんがいますか。」という設問について、妊娠中の方はどの選択肢に当てはまりますか。選択肢「1 子どもはいない」になるのでしょうか。

(事務局) 子どもが生まれる前の方については、選択肢「1 子どもはいない」を選択していただきたいと意図しております。

(会長) F7「あなたの家族構成は、次のうちどれですか。」という設問について、選択肢「2 夫婦のみ」という表現があります。これより前の設問では「結婚している(事実婚・同棲を含む)」や「配偶者(パートナー)」という配慮をしているので、この「夫婦のみ」という表現についても、もう一度検討していただければと思います。

(事務局) あらためて検討いたします。

(会 長) 問6で男性が育児休業や介護休業などをとることについて「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人への設問として、問6-1「そう考えるのはどのような理由ですか。」という設問があります。なんとなく気になったのですが、設問に対する選択肢が休業を取得する当事者向けのような感じがないでしょうか。

(事務局) こちらの設問は、自分が取得するかどうかということだけにかかわらず、家族や周囲、世間一般で休業を取ることに對しての考えを答えていただきたいと意図しております。

(会 長) 他のみなさまの感覚で特に気にならないようであれば、このままで構いません。

(委 員) 費用をかけてこうした調査を行うと思いますが、一般的な回答率は、どれくらいなのでしょう。また、回答率の目標がありましたら教えてください。

(事務局) まず、この男女共同参画に関する調査については、6年前の前回は、市民意識調査が43.2%、事業所調査が42.1%でした。市では他にも様々なアンケート調査を実施していますが、特に市の上位計画である総合計画に関連して毎年行っている「まちづくり市民アンケート」については、回答率がおおむね40~45%です。回答率の上昇のために目標を設定すべきということについては、ご指摘のとおりです。この男女共同参画に関する調査に限らず、回答率の上昇は課題として捉えており、ひとつの対応策として今回のウェブ回答の導入がありますが、今後、来年度の予算編成とあわせてさらに対応策を協議してまいります。

(委 員) 回答にかかる目安の時間はどれくらいでしょうか。特に事業所ではよくある話で、担当者がどれくらい時間をとられるか分からないとなかなかとりかかってもらえないこともありますので、それぞれの調査票に回答の目安時間を入れてはいかがでしょうか。

(事務局) 調査票やウェブ回答の画面上に目安時間を入れたいと思います。また、よいご意見でありますので、この男女共同参画に関する調査に限らず、市で行う他のアンケートについても取り入れていきたいと思ひます。

(委 員) ウェブ回答の活用はよい取り組みだと思います。ちなみにウェブ回答は、途中で一時保存ができるのでしょうか。もしできるのであれば、その旨を記載してもらえるとよいと思います。

(事務局) 確か一時保存ができたと思ひます。あらためて確認したうえで、回答の目安時間と

あわせて一時保存ができる旨をウェブ回答の画面上に表記します。

(会 長) その他、何か意見等はありませんか。

(特になし)

(会 長) 続いて、「事業所調査」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

(会 長) ただいま事務局から、「事業所調査」についての説明がありました。質問、意見がありましたら、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

(委 員) 問13「貴事業所の従業員の年次有給休暇の取得率はどれくらいですか。」という設問について、「※令和2年1月から12月（または令和2年度）の1年間における取得率の平均をお答えください。」とあります。事業所によっては年次有給休暇の付与は決算期に合わせているところもあり、必ずしも1月から、4月からとは限りません。特にこだわりのないのであれば、「直近の1年間」とする方が、事業所で把握しているデータですぐに答えられて負担が少ないかと思います。

(事務局) できるだけ負担をかけないように「直近の1年間」という表現に修正いたします。また、事業所ですでに把握しているデータで構わない旨もあわせて加えたいと思います。

(委 員) ウェブ回答のQRコードはスマホやタブレットから回答する場合は便利ですが、パソコンで回答する場合はURLを手入力することが多いかと思います。特に、事業所調査については職場のパソコンから回答することが想定されます。例えば、ホームページからワンクリックで調査票のページに飛べるなどの工夫があると、回答してもらいやすいのではないのでしょうか。不特定多数が回答してしまうという問題もありますが、検討いただければありがたいです。

(会 長) 実際に運用するとなると課題もあるかもしれませんが、ちょっとした工夫で回答しやすさが変わってくると思います。
その他、何か意見等はありませんか。

(特になし)

(会 長) 議題についての質疑はないようですので、次第「4. その他」に移ります。

4. その他

(会 長) 委員のみなさまから、他に何か質疑・意見等がありましたら、ご発言をお願いします。

(特になし)

(会 長) ないようですので、事務局へお返しします。

5. 閉会

(事務局) 本日は活発なご審議をありがとうございました。みなさまからいただいたご意見をもとに調査票を修正し、11月の調査に向けて準備を進めてまいります。この後、市長への審議結果の報告を経て、最終版の調査票が完成しましたら、委員のみなさまにご報告させていただきます。

また、次回の審議会は2月頃を予定しております。この調査の結果報告を行ったうえで、次年度に控えた推進プランの改訂に向けての審議をお願いしたいと考えております。また開催の1か月くらい前にご案内を差し上げますので、よろしく願いいたします。